標準理学療法学 【専門分野】

『内部障害理学療法学 第2版』

講義用モデル・シラバス

医学書院

● 『内部障害理学療法学 第2版』を用いた講義用シラバス

授業科目名	内部障害理学療法学	授業形態	講義
対象学年	2	開講学期	後期
科目責任者		単位数	2
科目担当者			
授業の概要			
<p>本講義は、基礎医学で学んだ知識を基礎に循環器系、呼吸器系、代謝系についての解剖、生理を復習するとともに、内部障害理学療法の代表的な対象疾患（虚血性心疾患、心不全、COPD、間質性肺疾患や肺炎、胸腹部外科手術前後、糖尿病、慢性腎不全など）の特性と病態を解説する。各疾患や病態の理解は内部障害理学療法の基本であり、疾患や病態の理解をもとにどのように重症度の評価を行い、リスクの層別化を行うかを説明する。さらに、各内部障害に対する理学療法の基本を講義する。</p>			
授業の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部障害理学療法に必要な解剖、生理を説明できる。 ・ 内部障害理学療法の代表疾患をあげ、その特性と病態を説明できる。 ・ 内部障害理学療法の評価や基本的な内容について説明できる。 ・ 内部障害の代表疾患の理解から問題点を抽出し、重症度の判定やリスクの層別化ができる。 			
成績評価方法			
<p>定期試験の結果（50%）、確認テストの結果（30%）、講義中の課題（20%）の合計点より最終評価を行う。</p>			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎医学で学習した循環、呼吸、代謝系に関連する解剖・生理学、運動学の復習を十分にしておくこと。 ・ 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと（各講義開始前に前回講義内容の確認テストを行う）。 ・ 講義中や講義終了後、わからない部分があれば、必ず担当教員に質問すること。 ・ 講義中は積極的に発言すること。 			
テキスト・参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高橋哲也・神津玲・野村卓生、編：内部障害理学療法学 第2版、医学書院 ・ その他、講義時に随時資料を配布する。 			
オフィスアワー			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回の講義にて連絡する。事前メールにて随時対応。 			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内や学内通信ネットワーク XXXX を使用して返却。 			
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連			
<p>共通 DP-1・2・3、理学 DP-1・2・3・4・5</p>			
担当教員の実務経験			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教員とも病院での臨床経験が10年以上あり、内部障害理学療法の卒前・卒後ともに教育経験も豊富である。 			

●授業計画（授業内容と授業時間外の指導など）

授業回数	担当	授業内容・方法	授業時間外の指導など（予習、復習レポートなど課題の指示）
1		<p>●内部障害理学療法学 総論</p> <p>内部障害の対象疾患、推移、特徴について解説する。また、内部障害理学療法の特徴、目的や効果、必要性などの総論を講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅰ編序論「<u>内部障害とは</u>」をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
2		<p>●循環器の解剖と生理</p> <p>心臓、冠動脈、血管の解剖について、理学療法と関連させて講義をする。また、理学療法に重要な循環生理学について解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第1～2章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
3		<p>●疾病の理解①：虚血性心疾患について</p> <p>虚血性心疾患の病態、検査や治療などについて解説する。また、疾患の重症度、リスク管理、理学療法の進め方について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第3章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
4		<p>●疾病の理解②：心不全について</p> <p>心不全の定義、分類、病態、検査や治療などについて解説する。また、典型的な症状、疾患の重症度、リスク管理、理学療法の進め方について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第4章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
5		<p>●急性期の理学療法と回復期の理学療法</p> <p>急性期理学療法の適応と禁忌、開始基準や中止基準について解説する。また、急性期理学療法の進め方や、回復期の運動療法についても講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第13～14章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
6		<p>●包括的な心臓リハビリテーション</p> <p>冠危険因子について解説し、心疾患の再発予防について講義する。また、患者心理や社会復帰に向けた指導についても解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第15章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
7		<p>●呼吸器系の解剖と生理</p> <p>胸部、呼吸筋、気道や肺実質などの解剖について解説する。また、理学療法に重要な呼吸生理学について解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅲ編第1～2章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
8		<p>●慢性閉塞性肺疾患 COPD</p> <p>COPD の臨床的特徴と基本的治療などについて解説する。また、疾患の重症度、リスク管理、理学療法の進め方について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅲ編第10章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
9		<p>●間質性肺疾患、高齢者肺炎</p> <p>間質性肺疾患や高齢者の肺炎について臨床的特徴と基本的治療などについて解説する。また、疾患の重度、リスク管理、予防を含めた理学療法の進め方について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅲ編第11～12章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>

10		<p>● 胸腹部外科周術期、急性呼吸不全・呼吸管理</p> <p>胸腹部外科手術の特徴や周術期管理、術後理学療法の実際などについて解説する。また、急性呼吸不全に関連した酸素療法や人工呼吸療法について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第13～15章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
11		<p>● 呼吸理学療法</p> <p>呼吸理学療法の定義や目的、構成要素、各種呼吸理学療法について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第7章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
12		<p>● 肝胆膵、腎臓、内分泌腺の解剖と代謝系の生理学</p> <p>肝胆膵、腎臓、内分泌腺の解剖を解説する。また、理学療法に関連する運動時のエネルギー代謝などについて講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第1～2章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
13		<p>● 糖尿病</p> <p>糖尿病の特徴と基本治療、三大合併症などについて解説する。また、理学療法に関連する血糖自己測定、低血糖への対処、運動療法の基本について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第4～5章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
14		<p>● 糖尿病に対する運動療法</p> <p>糖尿病の基本治療である運動療法の基本について解説する。特に、合併症を有する患者に対する評価やリスク管理について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第6～7章を読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
15		<p>● 腎障害</p> <p>慢性腎臓病の疫学や病態、治療（人工透析を含む）などを解説する。また、慢性腎臓病患者に対する標準的な理学療法について講義する。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第10～11章を読んでくること。</p> <p>【復習】定期試験に向けて授業内容を全般にわたって復習すること。</p>

標準理学療法学 【専門分野】

『内部障害理学療法学 第2版』

実習用モデル・シラバス

医学書院

● 『内部障害理学療法学 第2版』を用いた実習用シラバス

授業科目名	内部障害理学療法学実習	授業形態	実習
対象学年	3	開講学期	前期
科目責任者		単位数	2
科目担当者			
授業の概要			
<p>本講義は、基礎医学で学んだ知識を基礎に、内部障害疾患（循環器疾患・呼吸器疾患・内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患）に対する理学療法評価法や理学療法技術などを修得することを目的とする。特に、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定、心電図測定、肺機能検査、運動負荷試験など）を自ら実践できるように実習する。さらに、グループワークを通して、内部障害理学療法における代表疾患に対して、理学療法評価の選択、各評価方法の意義と結果の解釈、リスクの層別化、評価結果に基づく理学療法プログラムの立案方法から理学療法の実際までを系統的に学修する。</p>			
授業の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患・呼吸器疾患・内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法評価法を理解し、実践できる。 ・内部障害理学療法の評価結果から問題点を抽出し、重症度の層別化し、運動療法プログラムを立案できる。 			
成績評価方法			
定期試験の結果（50%）、確認テストの結果（30%）、講義中の課題（20%）の合計点より最終評価を行う。			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学で学習した循環、呼吸、代謝系に関連する解剖・生理学、運動学の復習を十分にしておくこと。 ・各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと（各講義開始前に前回講義内容の確認テストを行う）。 ・講義中や講義終了後、わからない部分があれば、必ず担当教員に質問すること。 ・講義中は積極的に発言すること。 			
テキスト・参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋哲也・神津玲・野村卓生、編：内部障害理学療法学 第2版，医学書院 ・講義時に随時資料を配布する。 			
オフィスアワー			
・初回の講義にて連絡する。事前メールにて随時対応。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法			
・授業内や学内通信ネットワーク XXXX を使用して返却。			
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連			
共通 DP-1・2・3、理学 DP-1・2・3・4・5			
担当教員の実務経験			
・全教員とも病院での臨床経験が10年以上あり、内部障害理学療法の卒前・卒後ともに教育経験も豊富である。			

●授業計画（授業内容と授業時間外の指導など）

授業回数	担当	授業内容・方法	授業時間外の指導など（予習、復習レポートなど課題の指示）
1		<p>●フィジカルアセスメントと循環器疾患の身体機能・構造の評価①</p> <p>血圧や脈拍の測定に加えて、循環器疾患に特徴的な末梢循環、うっ血、浮腫、の評価法の実際について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第10章をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
2		<p>●フィジカルアセスメントと循環器疾患の身体機能・構造の評価②</p> <p>血圧や脈拍の測定に加えて、循環器疾患に特徴的な末梢循環、うっ血、浮腫、の評価法の実際について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第10章をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
3		<p>●心電図①</p> <p>心電図の基本原則から目的、実際の装着方法まで学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第8章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
4		<p>●心電図②</p> <p>不整脈について学ぶ。なぜ不整脈が問題なのか、不整脈の重症度を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第9章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
5		<p>●心電図③</p> <p>不整脈について学ぶ。虚血、梗塞時の心電図変化について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第9章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
6		<p>●胸部X線写真①</p> <p>理学療法に必要な胸部X線写真の基本原則と循環器疾患や呼吸器疾患の特徴について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第6～7章の中から該当部分をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
7		<p>●胸部X線写真②</p> <p>理学療法に必要な胸部X線写真の読影方法について実践を通じて学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅱ編第6～7章の中から該当部分をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
8		<p>●呼吸器機能障害の評価①</p> <p>呼吸器系理学療法に必要な視診、触診、聴診、打診などのフィジカルアセスメントを学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第Ⅲ編第4章の中から該当部分をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>

9	<p>●呼吸器機能障害の評価②</p> <p>呼吸器系理学療法に必要な視診、触診、聴診、打診などのフィジカルアセスメントを学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第4章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
10	<p>●呼吸器系疾患の理学療法評価①</p> <p>肺機能検査や呼吸筋力の測定法を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第5章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
11	<p>●呼吸器系疾患の理学療法評価②</p> <p>動脈血液ガス検査の内容と評価法を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第5章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
12	<p>●呼吸理学療法基本手技①</p> <p>呼吸理学療法基本手技について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第7章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
13	<p>●呼吸理学療法基本手技②</p> <p>呼吸理学療法基本手技について学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第III編第7章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
14	<p>●吸引の実際①</p> <p>理学療法士に必要な吸引と知識と技術を学ぶ。</p>	<p>【予習】日本理学療法士協会の『吸引プロトコル 第2版』をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
15	<p>●吸引の実際②</p> <p>理学療法士に必要な吸引と知識と技術を学ぶ。</p>	<p>【予習】日本理学療法士協会の『吸引プロトコル 第2版』をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
16	<p>●運動耐容能評価</p> <p>6分間歩行試験、シャトルウォーキングテスト、心配運動負荷試験など運動耐容能評価の基本的方法を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第II編第12章、第III編第6章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
17	<p>●運動療法プログラムの作成</p> <p>運動耐容能評価の結果を参考にした運動療法プログラムの作成方法を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第II編第12章、第III編第6章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
18	<p>●糖尿病患者の評価と運動指導</p> <p>糖尿病に対する基本評価と糖尿病特有の運動療法プログラム立案を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第6章をよく読んでくること。</p> <p>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>

19		<p>●糖尿病足病変 糖尿病足病変患者の基本評価と、フットケア、理学療法プログラム立案を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編第9章をよく読んでくること。 【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること。</p>
20		<p>●グループワーク① グループワークをとおして、循環器障害の理学療法や予防の知識を深める。</p>	<p>【予習】教科書の第II編をよく読んでくること。 【復習】定期試験に向けて授業内容を復習すること。</p>
21		<p>●グループワーク② グループワークをとおして、呼吸器障害の理学療法や予防の知識を深める。</p>	<p>【予習】教科書の第III編をよく読んでくること。 【復習】定期試験に向けて授業内容を復習すること。</p>
22		<p>●グループワーク③ グループワークをとおして、内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法や予防の知識を深める。</p>	<p>【予習】教科書の第IV編をよく読んでくること。 【復習】定期試験に向けて授業内容を復習すること。</p>
23		<p>●グループワーク④ グループワークをとおして、心不全、呼吸不全、糖尿病の療養指導についての知識を深める。</p>	<p>【予習】教科書の第II～IV編をよく読んでくること。 【復習】定期試験に向けて授業内容を復習すること。</p>